

2022年2月15日

## 通貨ニュース

# メキシコ: Banxico のインフレ見通しが再び上振れ

メキシコ中央銀行(Banxico)は10日、金融政策決定会合を開催し、政策金利(翌日物金利)を50bp引き上げて6.00%とすることを決定した(図表1)。利上げは2021年6月以降、6回連続。声明文によれば、ビクトリア・ロドリゲス新総裁を含め4名が50bpの利上げを主張、1名は利上げ幅を25bpにとどめるべきと主張した。

メキシコ経済は2021年後半に2四半期連続のマイナス成長となり、定義上の景気後退が確認されている。それでも、Banxicoが前回同様のペースで追加利上げに踏み切った理由は、引き続きインフレへの警戒感である。声明文では素直に、インフレ圧力は予想していたよりも強まっており、長期化しつつあることを指摘している。

1月の消費者物価指数(CPI)は前年比+7.07%と前月(同+7.36%)からやや鈍化したとはいえ、11か月連続で同行の目標レンジ(前年比+2%~+4%)を上回っている。また、コアCPIは同+6.40%と加速を続けており、インフレ圧力がより広範囲に及んでいることがうかがえる(図表1)。

先々のインフレ見通しも上振れが続いている。Banxicoの公表した最新のCPI見通しでは、足許の2022年1~3月期から2023年1~3月期にかけての5四半期について、前回会合時点から再び上方修正が加えられている(図表2)。また、コアCPIの見通しについても、2022年1~3月期から2022年10~12月期にかけて上方修正された。声明文では、インフレリスクは上方に傾いているとの従来からの認識も踏襲されている。

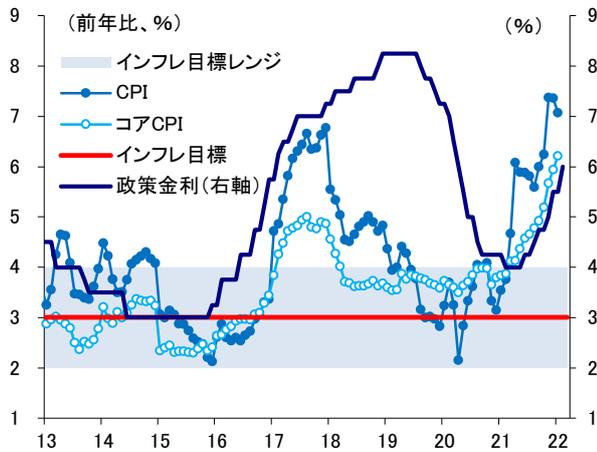
追加利上げ判断に至った背景を説明するくだりで、「中長期のインフレ見通しを巡るリスク」を追記(下線部)した点からも、警戒感の高まりは明確だろう。

**The Governing Board evaluated the magnitude and diversity of the shocks that have affected inflation and its determinants, along with the risk of medium- and long-term inflation expectations and price formation becoming contaminated, as well as the additional challenges posed by the ongoing tightening of global monetary and financial conditions.**

次回会合(3月24日開催予定)に向けてのスタンスは従来通りである。すなわち、インフレ及びBanxicoのインフレ見通しに関する予測軌道に影響を与えうるあらゆる要因とともに、実際のインフレ圧力の動向を徹底的に監視していく。高いインフレ率そのものが、将来のインフレ率やインフレ見通しに上昇圧力を加えうるとの問題意識も変わらない。また、米金融正常化の加速による通貨安(⇨インフレ圧力)も厄介な問題となりうる。その上で、Banxicoは、インフレ率が予測期間の最後までに(by the end of the forecast horizon)同行の目標値(前年比+3%)に落ち着いてくるよう、利上げペースを調整していくことになる。

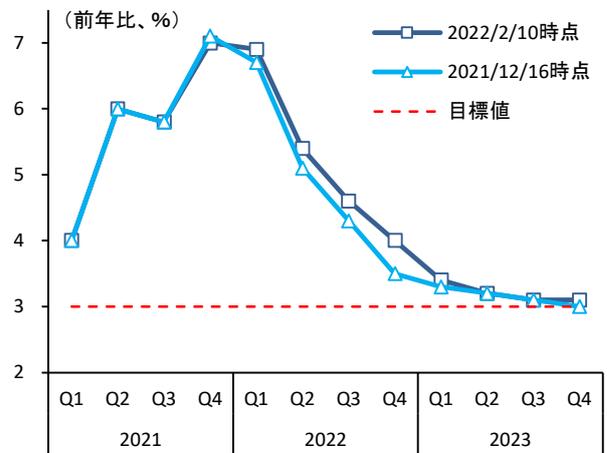
市場営業部  
マーケット・エコノミスト  
堀内 隆文  
03-3242-7065  
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

図表 1: 政策金利とインフレ率



出所: メキシコ中央銀行、地理統計院、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: Banxico の CPI 見通し



出所: メキシコ中央銀行、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。